

## 長島誠一教授退任記念号の発刊に寄せて

長島誠一教授は、2012年3月に本学をめたく定年退職されました。先生は1982年4月に経済学部助教授としてご着任され、30年にわたって本学において研究・教育活動のみならず学内行政にも積極的に携われてきました。在職中の長島先生のご功績に対する感謝の意を表して本学は2012年5月に名誉教授の称号を贈らせていただきました。

長島先生は、1941年に東京でお生まれになり、疎開先の福島で高校まで過ごされました。そして、一橋大学経済学部および同大学院経済学研究科を修了されたあと、一橋大学の助手を経て、1971年に関東学院大学にご着任されました。同大専任講師・助教授を務められたのうち、1982年に本学にご着任され、1983年に教授に昇任されました。また、本学にご着任後も、一橋大学・九州大学・早稲田大学等で非常勤講師を務められました。本学では、「経済学原理」「景気循環論」「比較経済社会論」などをご担当され、先生の優しい語り口と学生の興味を喚起する講義は、多くの学生を教室に引きつけていました。

長島先生の研究分野はマルクス経済学の理論・実証研究、特に景気循環論や恐慌論であります。業績一覧で明らかなおと、先生は、研究生活の初期から退職されるまで、コンスタントに研究を積み重ね、その成果をご著書の形で出版されてきました。この生産性の高さには感嘆するばかりです。そして、マルクス経済学の理論研究の集大成が『現代マルクス経済学』（桜井書店、2008年）として、景気循環論に関する研究の集大成が『現代の景気循環論』（桜井書店、2006年）として結実されたとお聞きしております。近年は環境問題にも積極的に取り組んでおり、『エコロジカル・マルクス経済学』（桜井書店、2010年）では、マルクス経済学の枠組みの中に環境問題を包摂する試みをされております。

学外での長島先生の活動も忘れることができません。まず、1983年から2年間、そして1998年から7年間の2回にわたり経済理論学会の幹事の要職を務められたほか、学術振興会・科学研究費審査委員や日本経済学会連合評議委員も務められました。さらに、2002年以降は独占研究会の世話人も務められました。

ご在職中の長島先生は、研究・教育のみならず、1989年4月からの2年間は大学院経済学研究科主任を、1992年4月からの2年間は入試委員長を、そして1998年4月からの2年間は学生部長という重要な役職を務めるなど、学内の行政の面でも力を発揮されました。私が本学に着任した際には、先生は入試委員長を務められており、入試改革を巡って全学教授会で奮闘されていたのをはっきりと思い出します。さらに、長島先生は長く弓道部の部長を務められ、本学の体育会活動の発展にも貢献されました。

長島誠一教授退任記念号の発刊に寄せて

個人的なエピソードで恐縮ですが、私が入試委員長を務めていた際は、私が幾度となく失言や失敗をするたびに、入試委員長の先輩である長島先生に暖かいお言葉をかけていただきました。その節は本当にありがとうございました。

長島先生は、学部教授会や全学教授会等でのお別れの挨拶に際して、『小学校生活から始めて、何回も「卒業」を経験してきたが、大学教員として教育機関にとどまり真の「卒業」を果たすことができなかった。今回の退職が本当に最後の「卒業」になる』とおっしゃられていました。長島先生、ご卒業おめでとうございます。今後は、教育機関という場を離れて、自由人としてお元気でご活躍ください。

2012年10月

経済学部長 浜野忠司